

間々田のじゃがまいた伝承館整備基本計画

令和5年3月

小山市・小山市教育委員会

目 次

1. 間々田のじゃがまいた 現状と課題	1
1-1 伝承館整備における背景と課題	
1-2 小山市関連計画における位置づけ	
2. 伝承館整備に向けた基本的な考え方	3
2-1 伝承館の設置目的	
2-2 想定する利用者	
2-3 整備の基本方針	
3. 事業計画.....	4
4. 活動計画.....	5
4-1 導入体験 じゃがまいたの紹介	
4-2 伝承活動1 技術を伝承する	
4-3 伝承活動2 じゃがまいたを伝承する	
4-4 記録・保存活動 伝承を支える	
5. 施設計画.....	13
5-1 諸室計画	
5-2 諸室構成	
5-3 平面図	



1. 間々田のじゃがまいた 現状と課題

1-1 伝承館整備における背景と課題

小山市は、栃木県南部に位置し、中央を南流する思川を境にして、東部台地上に市街地が広がり、おおむね平坦な畑地帯が東南方向にひらけ、西部は肥沃な水田地帯を構成しています。

「間々田のじゃがまいた」(以下「じゃがまいた」と称する)が行われる間々田地区は、その小山市南部の思川左岸、野木町に接する旧間々田町の一部です。

この間々田地区を縦断しているのが旧日光街道(現国道4号)で、その街道沿いに形成された宿場町を中心として行われてきたじゃがまいたは、五穀豊穡や無病息災を祈願して、古くから行われてきた伝統行事であり、平成23年3月9日に、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択され、平成31年3月28日には、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

民俗行事は内外の影響を受けながら変容を繰り返して現在に至った背景を持っているため、起源をたどることは困難とされており、じゃがまいたについても記録類は極めて少なく、聞き取り調査などを重ね、起源から今日に至るまでの歴史を類推する以外ありませんでした。脈々と受け継がれた民俗行事は、人々の様々な思いが込められ、地域を豊かにすると共に、そこに住む人々をひとつにする働きも果たしてきました。

今日においては、社会情勢の変化に伴う少子高齢化や人口減少などの影響により、じゃがまいたへの理解度及び参加率の低下が危惧されています。さらに近年では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、3年連続で中止となりました。このことは、地域の担い手からじゃがまいたを披露する機会を奪い、楽しみにしていた来訪者からもじゃがまいたの文化的価値に触れる機会を奪うなど、多くの人々にとって大きな損失となりました。また、開催当日以外は、じゃがまいたに触れる機会がないため、地域の人々だけでなく、市内外の人々も貴重な文化財としての価値を日常的に学習できる場が求められています。

これらのじゃがまいたをとりまく課題に対し、地域全体で解決に向けて取り組んでいくために、「間々田のじゃがまいた伝承館」(以下「伝承館」と称する)の整備を推進してまいります。

「間々田のじゃがまいた」とは

古くから間々田地区の7つの町内(間々田1丁目から6丁目、長者町)で5月5日(かつては4月8日)に行われる伝統行事です。町内ごとに竹やワラ、シダ(コケラ)などを使って、長さ15mもの個性豊かな蛇(じゃ)を作り、五穀豊穡、疫病退散を願い「じゃがまいた、じゃがまいた」の掛け声とともに蛇を担いで町内を練り歩きます。蛇には各町内の強い思いが込められており、町内間で競い合うことにより、町内の結束をより強めています。

1-2 小山市関連計画における位置づけ

第8次小山市総合計画

実施期間：令和3年度～令和7年度

「歴史文化」において、「間々田のじゃがまいた」など小山市が誇る歴史文化を発信するとともに、未来永劫保存・伝承に取り組むために、伝承館整備は、「間々田のじゃがまいた保存・活用事業」として位置づけられています。

間々田のジャガマイタ調査報告書

実施期間：平成28年度～平成29年度

発行日：平成30年3月31日

小山市では「間々田のじゃがまいた」の記録保存を目的として、平成28年に「小山市国選択無形民俗文化財間々田のジャガマイタ調査委員会」を組織し、じゃがまいたおよび関連する民俗の調査を実施し、その調査結果を「間々田のジャガマイタ調査報告書」としてまとめました。この報告書では、「間々田のじゃがまいた」を継続していくなかで、地域が直面している課題として、材料の確保、人材の育成と確保、記録の必要性等が挙げられました。

間々田のじゃがまいた伝承館整備の考え方

実施期間：令和3年度

発行日：令和4年3月

「間々田のじゃがまいた」が国の重要無形民俗文化財に指定されたことを契機に、じゃがまいたを末永く守り伝えるとともに、その貴重な文化的価値を市内外へ発信し、地域の交流・活性化を促進する拠点施設として、「間々田のじゃがまいた伝承館」整備に向けた基本的な考え方をまとめました。





2. 伝承館整備に向けた基本的な考え方

2-1 伝承館の設置目的

じゃがまいたを未来永劫に保存伝承するために、じゃがまいたを行う意味や行われてきた経緯を正しく伝えるとともに、市内外の人々に文化的価値を広く発信することを目的とします。

間々田のじゃがまいた保存会（以下「保存会」と称する）をはじめとしたじゃがまいたに関わる人々が中心となって活動する場を創出することにより、地域に根差して日常的に活用することができる施設をめざします。伝承館はじゃがまいたの「技」や「魂」を肌で感じ、体験を織り交ぜながら技術を習得することを主軸に置き、地域の小・中学生をはじめとした次世代の担い手にじゃがまいたの価値と存続の精神が培われ、地域の人々が町内や世代、立場を超えて触れ合うことができる環境を創出することにより、地域の活性化の場となる機能を整備します。

さらに、市内外の人々にもじゃがまいたを身近に感じてもらうために、開催当日だけでなく日常的に紹介する機会を創出することにより、貴重な文化財としての価値を広く学習する場となる機能を整備します。

2-2 想定する利用者

- 保存会をはじめとした担い手
- じゃがまいたの担い手となる子どもたち
- 小山市内の小・中学校・義務教育学校 見学者
- 地元住民
- 市内外からじゃがまいたを学びに来た人々

2-3 整備の基本方針

- 技術の体得を主の観点に置き、じゃがまいたの歴史や技術、価値を伝承する場とします。
- 保存会をはじめとしたの担い手が伝承の中心となり、伝承のための活動の場とします。
- じゃがまいたに対する見識を高め、価値を再認識できる機会を提供します。
- 口承されてきたじゃがまいたのアーカイブ機能を持たせます。
- 地域の人々が日常的に訪れて、じゃがまいたを中心に対話を生み出す場とします。
- じゃがまいたを幼少期から楽しみながら触れることができる施設とします。
- 市内外に向けてじゃがまいたを広く発信し、深い理解につなげる施設をめざします。

3. 事業計画

事業計画は、伝承館の基本的な考え方に基づいて進めていきます。
伝承館では、その設置目的や基本方針を実現するために、以下の3つの視点を大切にします。

視点 1

技術の伝承事業

じゃがまいたの技術を確実に伝え、次世代の担い手を伝承する上での課題に取り組む活動を行います。体験や交流の提供を通じて技術を体感的に伝える伝承活動と、技術を体系的に整理し紹介する伝承活動を検討します。

視点 2

記録・保管・公開事業

じゃがまいたに必須である「蛇作り」の技術を記録し、じゃがまいたに関する知識や資料の収集・保管ができる活動を行います。特に担い手が少なくなりつつある技術を確実に次世代に伝承していくため、「技術の伝承事業」を支える事業として「記録・保管・公開事業」が重要だと捉えます。

視点 3

歴史情報発信事業

歴史資料や聞き取り調査から得られた情報を活用した展示など、じゃがまいたに関する情報発信を行い、じゃがまいたの歴史、行う意味・価値を市内外へ普及します。間々田地区の人々によって受け継がれてきたじゃがまいたへの関心、郷土への誇りの醸成を図ります。



活動計画

施設計画

これらの事業を達成するための施設として、伝承館の整備を計画します。保存会が中心となり、担い手へじゃがまいたの「技術」や「魂」を伝承するための拠点として、「間々田のじゃがまいたの伝承館整備基本計画」では「活動計画」と「施設計画」を進めます。



4. 活動計画

じゃがまいたの後継者育成などの課題に取り組むため、現在の姿を技術から紐解き、体感的に知ることと、体系的に知ることを兼ね揃えた活動を考えていきます。今日に残るじゃがまいたの「技術」や「魂」を確実に伝承していくための活動の拠点とします。地域の人々の対話を生み、町内や世代、立場を超えた交流が生まれ、じゃがまいたを通じた地域の活性化につながる場となる活動をめざします。

■活動計画の構成

- 4-1 導入体験 じゃがまいたの紹介
- 4-2 伝承活動1 技術を伝承する
- 4-3 伝承活動2 じゃがまいたを伝承する
- 4-4 記録・保存活動 伝承を支える

4-1 導入体験 じゃがまいたの紹介

来館者をじゃがまいたの世界に誘うために、エントランスホールでは伝承館の設立意義を紹介するグラフィックや蛇の模型を設置します。蛇作りの際には伝承室と接続しての使用を想定します。そのほか来館の受付やインフォメーション提供、待合スペースといった基本機能を備えます。

活動メニュー

- 実寸大の蛇模型と写真を撮ったり、担いでみたり、触ってみたり、蛇と触れる体験

蛇と記念撮影！

蛇を実際に担いでいるように写真が撮れるスペースを設けます。じゃがまいた未経験の子どもたちでもじゃがまいたとの接点を持つことができるきっかけを創出します。



4-2 伝承活動1 技術を伝承する

保存会を中心とした蛇頭・蛇体作りの実演および講習会を基軸に、保存会と将来の担い手が日常的に施設を訪れることで生まれる交流から、蛇作りの「技術」やそこに込められた「魂」が伝承される場を創出します。

- 保存会を中心とした蛇頭・蛇体作りの実演および講習会
- じゃがまいたの準備への地元住民の参画
- ミニ体験プログラム（竹編み体験、藁編み体験など）
- じゃがまいたの技術についての映像を用いた勉強会
- シダ（コケラ）の栽培（じゃがまいたに欠かせない地域の植生に触れる）





① 技術を「ひもとく」

じゃがまいたの技術を体系的に整理・紹介する伝承活動

これまで口承されてきた7つの町内の蛇作りの技術を体系的に整理し、誰もが理解できるように紹介します。また、時代に応じた技術の変化に対応できるよう更新性に配慮した展示システムや記録アーカイブ活動を行います。

1) 「蛇作りのわざ」からくりウォール 蛇作りの技術の体感的・体系的な紹介

蛇作りの材料や技術、制作工程について、グラフィックを用いて体系的に整理するとともに、道具や素材などの実物展示、映像端末、体験型の展示装置を埋め込むなどして蛇作りが体感的に理解できる壁面展示です。蛇作りに関わる人々の「声」を通じて、蛇作りのコツやポイントもわかりやすく紹介します。

[解説項目案]

●「蛇」とは何か

じゃがまいたにおける蛇の役割、素材や構造、作り手、解体・投棄など蛇に関する基本的な知識を紹介します。

●蛇作りの工程と技術のポイント

蛇作りの工程に沿って技術的なコツ・ノウハウを知ることができます。これまで口承とされていた部分についても、作業風景の記録映像や実物サンプルを用いた解説などを活用することで、将来の担い手が問題なく技術を受け継ぐことができるように配慮します。

2) 工程サンプル タッチ展示

工程毎にサンプルを製作し、比較できるように展示します。段階を踏んだサンプルを観察することで、手順がわかりやすく、各工程を比較できるようにします。

3) 職人の目もと 手もと

職人の目線、手元にフォーカスした映像を製作します。

普段見ることのない、滑らかな手の動き、迷いなく作る姿を見て、作り方、技術のアーカイブとしても機能させます。

4) 仕立てハンズオン

サイネージ画面上で蛇の仕上げ（化粧）やコケラマキ（蛇体にシダ（コケラ）を巻き付けること）、胴部の仕立ての面白さを福笑いのようなイメージで簡易的に体験してもらいます。

[解説項目案]

● 仕立ての要所

町内ごとに異なる仕立ての面白さと大切さについて、体験型の展示も織り交ぜながら紹介します。

● 7つの町内の違い

現在の7町内それぞれの蛇作りの技術的な違いを紹介します。



② 材料に「ふれる」

じゃがまいたの材料を体感的に触れ伝える活動

蛇の材料となるシダ（コケラ）・竹については、年々面積の減少あるいは消失が進んでおり、将来的には材料の調達課題となると考えられます。栽培する場所の確保に関して地域の理解と保護に向けた検討が必要です。伝承館ではそのシダ（コケラ）や竹を「生きた展示」として紹介します。解説板を設置して現在はなかなか手に入りにくくなっている現状や、地域の植生について理解を深めることができます。植物の名称や利用方法についても紹介します。



[解説項目案]

● 材料と調達方法

シダ（コケラ）は、現在蛇体を飾る植物であり、蛇の鱗をあらわすものとして、蛇体の見栄えを左右する重要な材料になっています。じゃがまいたの内容や性格の変化により、シダ（コケラ）が重要視されるようになり、質の良いシダ（コケラ）を大量に確保することがじゃがまいたを存続させるための課題となっています。このような課題を来館者にも知ってもらい、じゃがまいたを支える材料を確保する活動を行います。伝承館でも屋外でシダ（コケラ）の栽培をし、館内からも栽培の様子見ることができるような施設計画を行います。じゃがまいたを支えるために必要な間々田の植生、植物の生育の紹介をとおして、未来の担い手にじゃがまいたの材料の安定供給について考える場とします。



4-3 伝承活動2 ジャがまいたを伝承する

「ジャがまいたを伝承する」では、開催当日の熱気や間々田地区の賑わいを肌で感じてもらえる体験を考えます。また、ジャがまいたが受け継がれてきた経緯、内容、町内ごとの蛇の違いなどをグラフィックや映像、多角的な方法で紹介します。ジャがまいたに対する誇りと自らが伝承の担い手であることへの意識を喚起するとともに、開催に必要な情報がいつでも参照できることなどを検討します。

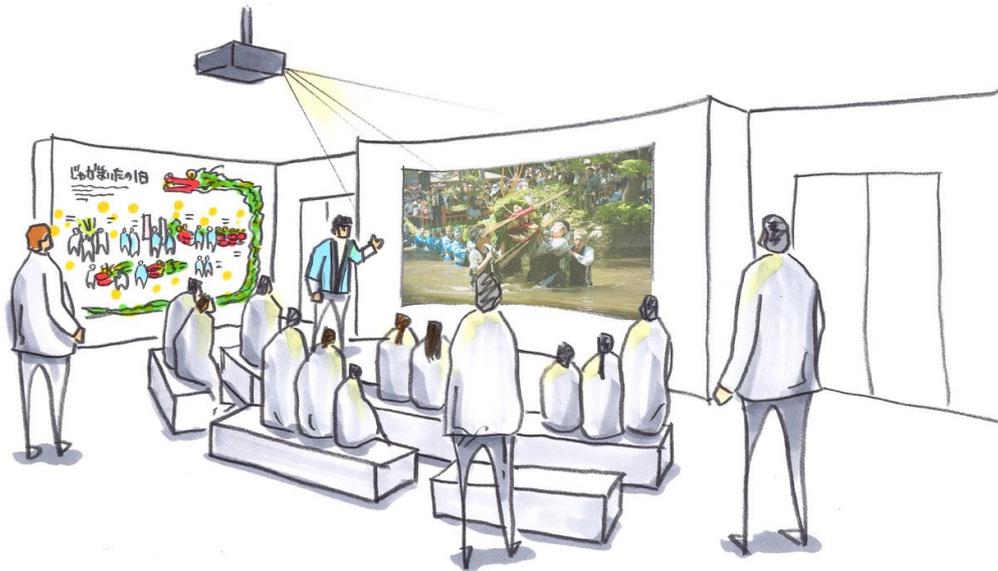
活動メニュー

- シアターを用いて開催当日の迫力や人々の熱気、興奮を肌で感じる体験
- 実寸大の蛇模型と写真を撮ったり、担いでみたり、触ってみたり、蛇と触れる体験
- ジャがまいたの歴史、これまで守ってきた活動や、地域の人々とのつながりを知る体験
- ジャがまいたの歴史などについての講座、映像を用いた勉強会の開催
- ジャがまいたに参加した人々の声、感想などの収集と紹介
- 開催当日の風景の写真や絵画などを募集した企画展の開催

伝承内容

① ジャがまいたを「ひもとく」

開催当日の進行や運営方法に関する体系的な紹介



1) じゃがまいたの1日絵巻物

開催当日の進行や運営手法を紹介します。時間軸に沿って一つひとつの内容や込められた意味を知ることができるとともに、それぞれの実施にあたり運営側に求められる要件を整理された情報から理解することができます。

[解説項目案]

●開催当日の進行

じゃがまいたの開催当日の進行を時系列に沿って紹介します。

2) じゃがまいた体験シアター

開催当日の迫力や人々の熱気、興奮を目の当たりにできる大型映像を投影します。蛇がまるで目の前で動き回るような臨場感で、じゃがまいたに参加したことがない人でも開催当日の迫力と興奮を味わうことができます。



3) じゃがまいたの歴史年表

間々田地区に伝わるじゃがまいたの歴史を紹介し、現在まで続いてきた経緯を学び、時代によって変わったもの、変わらずに残る信念に触れてもらいます。この内容は時代が変わっても不変のものとして、担い手がいつでもじゃがまいたの本質・意義に立ち返ることができる展示をめざします。

[解説項目案]

●起源と意義 ～じゃがまいたに込められた「祈り」と「魂」～

じゃがまいたの起源にまつわる諸説の存在や、間々田地区で人から人へ伝承され続けてきた中で不変の「祈り」「魂」を紹介します。

●じゃがまいたと間々田地区の風土

日光街道の宿場町であったことや、農業が盛んな間々田地区の風土的な特徴とじゃ

がまいたとのつながりを紐解きます。

● 間々田地区の人々の「和」と「対抗意識」

じゃがまいたを通じて間々田地区の人々が町内や世代、立場を超えてつながる、対話形成に貢献する側面を紹介します。

4-4 記録・保存活動 伝承を支える

これまで口承されてきた蛇作りの技術やじゃがまいたの運営方法等を記録するとともに、歴史的・文化的に価値のある情報を収集・保存し、じゃがまいたを後世へ永劫的に伝承するための資産として残していく活動を担います。

また、伝承館における伝承活動を支えるためには施設の維持管理と運営手法が適切に行われることが重要であることから、公の設置目的を損なうことなく、適正な管理のもと利用者ニーズに対応していくために、今後の設計業務の段階において並行した検討を行います。具体的には、伝承館に必要な機能や運営部門ごとの整理を行い、伝承館の運営団体の決定や、ボランティアや関連団体との連携業務などを検討します。

活動メニュー

- じゃがまいたの運営や蛇作りの技術に関する文献調査
- 保存会が有する知見の取りまとめ
- じゃがまいたの歴史の体系化した整理と年度ごとの更新
- 開催年ごと・町内ごとの記録写真、運営関連資料の収集・保管
- じゃがまいたに関連する資料やサンプル等の収集・保管
- 原材料の栽培・調達方法に関する調査・記録
- データベースの更新・管理
- じゃがまいたに関する情報提供
- 施設維持管理・運営計画の立案・実行・見直し改善

① じゃがまいたデータベース

じゃがまいたを記録し伝承を支える活動

じゃがまいたに関する様々な情報を伝承するアーカイブ機能として、毎年の実施内容、時代とともに変容する蛇作りの技術、運営方法などを記録保存し、いつでも情報を引き出すことができるデータベースを作成・管理します。



5. 施設計画

地域に誇れる伝統行事であるじゃがまいたを象徴する施設として、「技術」や「魂」を傳承する場の中心拠点となるよう整備します。保存会をはじめとする地域の人々が日常的に活動できる施設として運営します。

じゃがまいたを学びに来た市内外の人々に対しても発信機能を持たせるとともに、親しみやすい施設をめざします。

5-1 諸室計画

傳承活動エリア

「技術の傳承」にあたっては、伝統あるじゃがまいたの「魂」を受け継ぎ、その「技術」や「文化」を支える人材を育成します。このエリアは、じゃがまいたを担う人材が、口承されてきた技術の特質を理解し、興味を抱き、主体的に学習を進めるための「橋渡し」をするためのエリアです。

傳承室1 多目的な使用

じゃがまいたの「技術」や「魂」の傳承のための中核機能です。空間の広さ・高さや給排水設備、作業道具の収納スペースなど蛇作りに求められる基本要件を満たすとともに、他室との接続や机・椅子類のレイアウト変更によって勉強会・講演などの開催にも対応できる多目的スペースとします。

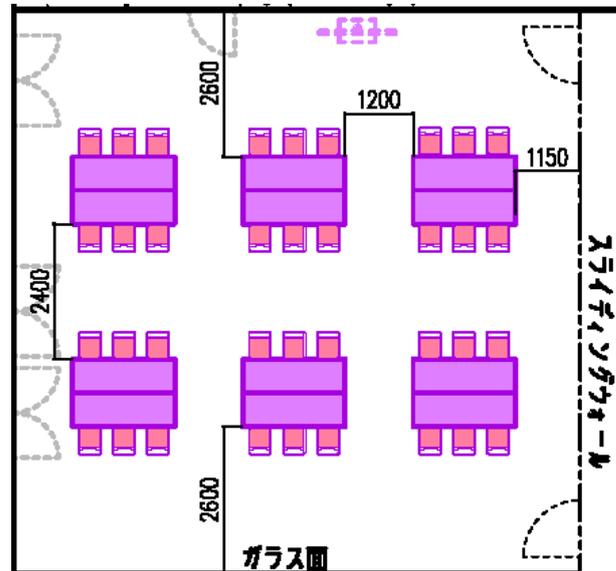
[必要機能]

- 長さ8mの竹を切るのに十分なスペースを確保できること
- 16mの竹割りに十分な広さになるように傳承室1、2、エントランスホールまで一体型の空間にできること
- 複数人が同時に刃物を使っても十分な安全が確保できること
- 隣接の倉庫に可動式の椅子などを収納できること
- 100人規模の会議、勉強会等にも対応できること
- 勉強会などで保存会作成の映像を流すことができること
- 水場と隣り合っていること
- 車入れスペースと連結していること
- 蛇作りに用いる道具類、サンプル等の収納スペースがあること

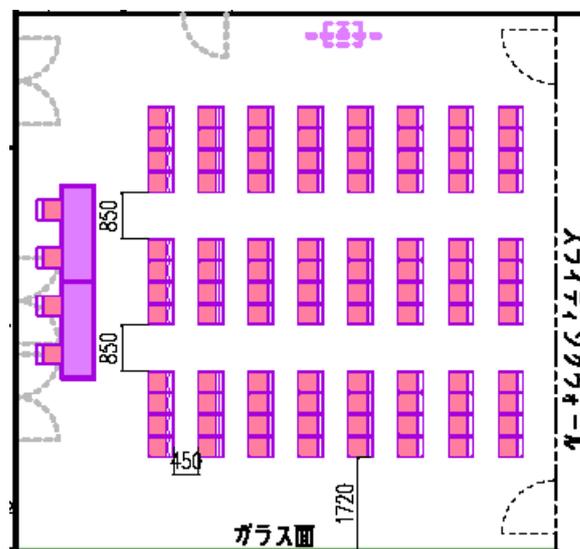
<伝承室の運用方法について>

伝承室は可動性の机・椅子・間仕切り等によって、蛇作りの伝承活動から大人数の勉強会・会議などの開催に対応します。以下に伝承室1のレイアウト例を示します。

レイアウト例1 蛇作りの伝承活動用のレイアウトパターン



レイアウト例2 100人規模の全体会議用レイアウトパターン



車入れ

車は2 tのトラックが入ることができるスペースを確保します。

水場・荷捌き室

竹に柔軟性を持たせるための「あく抜き」ができる広さのある水場を設置します。また、車入れとも隣接しており、屋外とつながる前室として、荷捌きができるスペースを確保します。



① 体験活動エリア

じゃがまいたの歴史、内容、町内ごとの蛇の違い、さらに蛇作りの技術などを体系的に整理し、グラフィックや映像、サンプルを用いて紹介します。地域住民に対しては、じゃがまいたに対する誇りと自らが伝承の担い手であることへの意識を喚起します。蛇作りの際にはエントランスホールと共に、伝承室1及び伝承室2を接続して使用することを想定します。

② 共用エリアおよび管理・運営エリア

来館者が施設を訪れて、最初に足を踏み入れる空間は、じゃがまいたと「出会う」を基本テーマとします。実物資料、原寸大の蛇の模型・参加型の伝承機能により、じゃがまいたの魅力を凝縮し、来館者の好奇心の入り口となる展示をめざします。蛇作りの際には、エントランスホールが伝承室と接続できるようにします。

会議室

小規模（20人程度まで）の打合せや内部作業のためのスペースです。エントランスホールや伝承室との接続によりさらに大人数での開催にも対応します。

事務室

伝承館の運営、維持管理等のためのスペースです。

倉庫

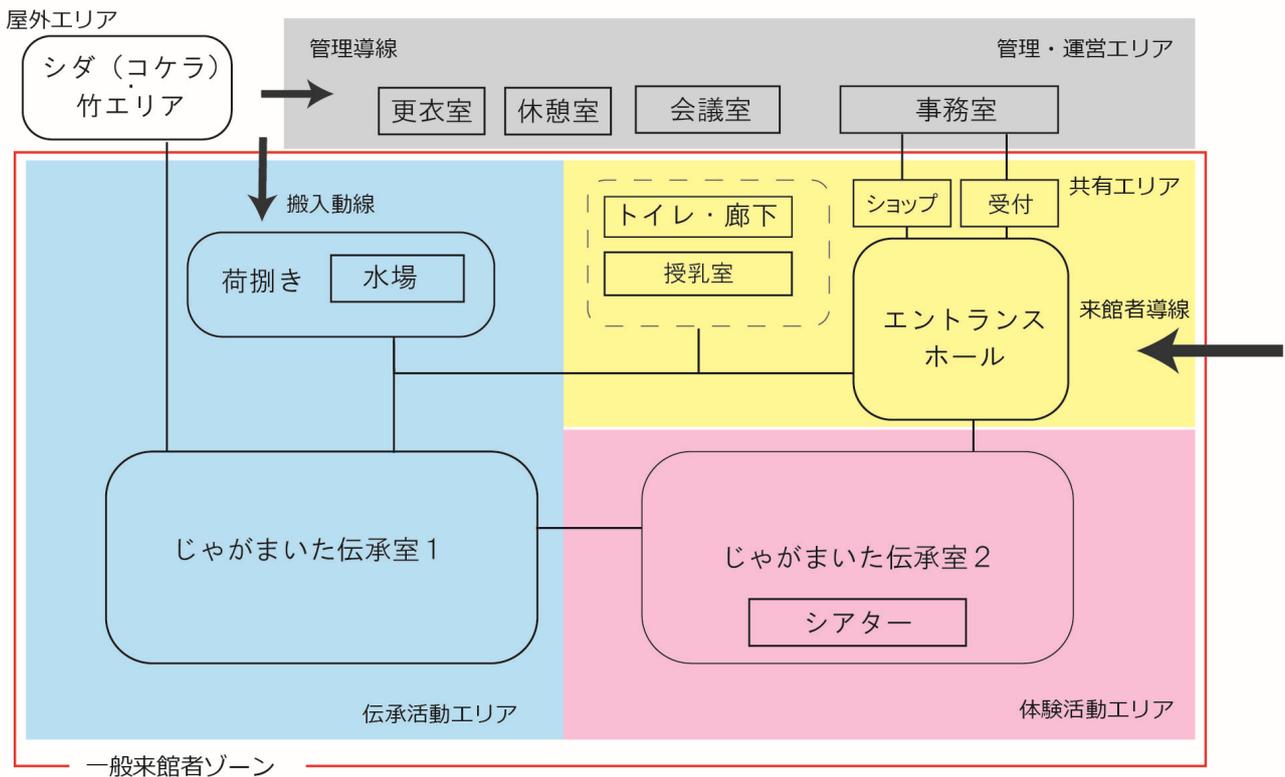
じゃがまいたに関連する実物資料、紙媒体資料などを収蔵保管でき、いつでも展示や蛇作りの際のサンプルとして利用できるようにします。

③ 屋外機能

蛇作りに欠かせないシダ（コケラ）や竹などの材料を「生きた展示」として屋外でも紹介します。地域の植生が蛇作りに欠かせない存在であることを来館者に実感してもらうための機能です。また、蛇をモチーフとしたオリジナル遊具を設置することで、子どもたちが遊びながらじゃがまいたに親しんでもらえる機能をめざします。

5-2 諸室構成

① ゾーニング計画



② 諸室構成表

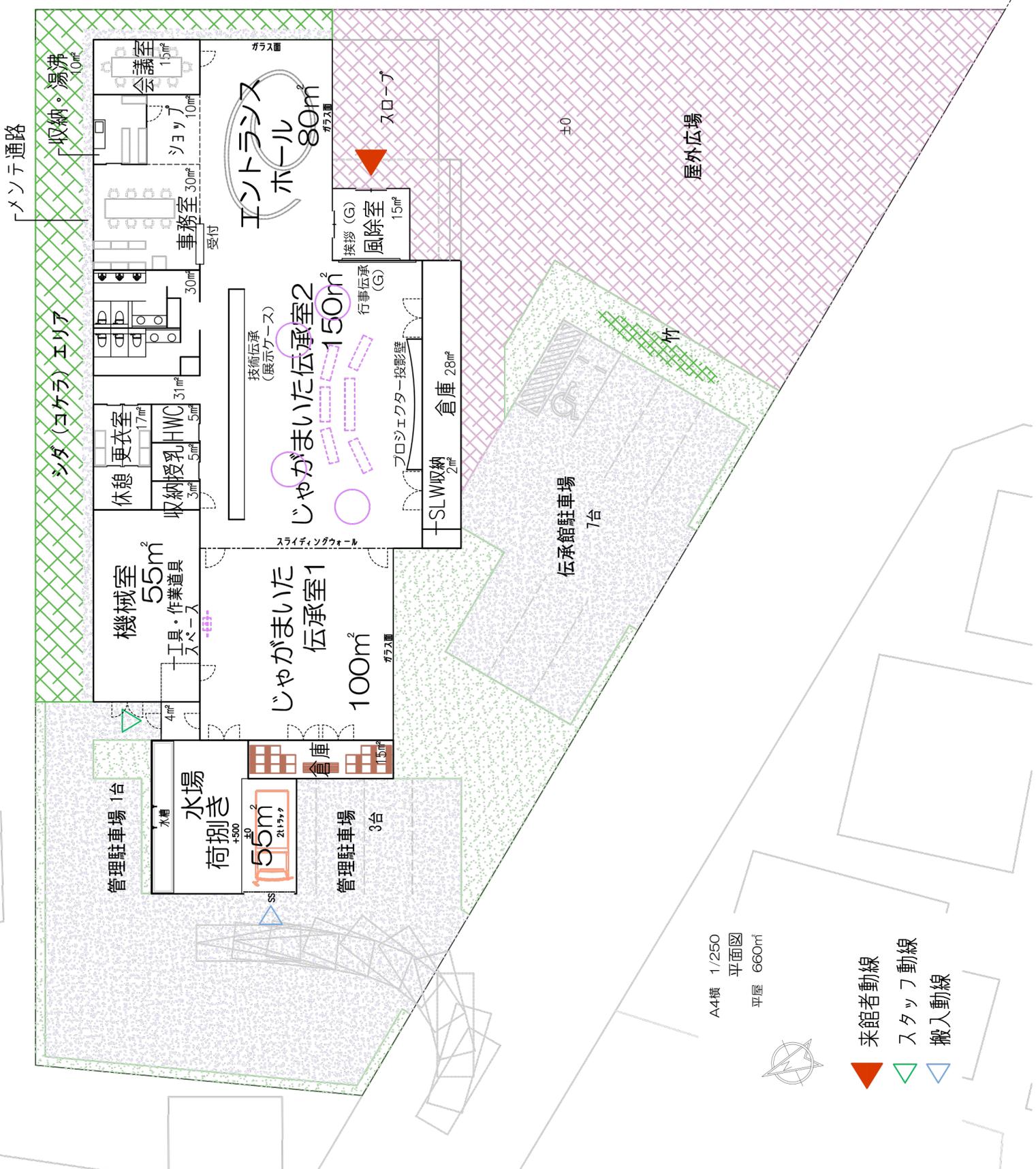
延床面積：660㎡

エリア	室名	面積	面積比	役割内容	必要備品
間々田のじゃがまいた伝承館					
		348㎡			
技術伝承活動	じゃがまいた伝承室 1	100㎡	52.7%	蛇作りや蛇頭作りの技術伝承、100人規模の全体会議、じゃがまいた講習会、勉強会、開催当日は詰め所、など様々な活用が可能。 長さ8mの竹を切るため、最大で16m長さが必要な作業もあるため、大がかりな作業、多く人が集まる作業の時は、伝承室1と2を繋げて使用することが可能。	可動式椅子・机、可動式モニター
	倉庫	15㎡		伝承室1の多目的な利用を可能とするため、最大100名分の椅子・机を収納する。	扉寸法に対し、開口サイズを最大にできるように検討し、開き戸とする。
	水場・荷捌き・車入れ	55㎡		車入れは2tトラックで蛇作りの材料を搬入することが考えられている。 縄や竹などの水を使う作業は、トラックから降ろしてすぐ、荷捌き室の水場で行う。 大きい道具などは荷捌き室で管理し、機械室内にも工具・作業道具スペースを確保する。	7.5mの水場、大型の道具の収納スペース
	じゃがまいた伝承室 2	150㎡		展示機能、体験シアターも兼ねる。	グラフィックパネル用壁面、展示ケース、可動式展示什器4台（R1800の正円）、体験シアター壁面、ソファ5台（最大20人視聴可）※廊下の先のシダ（コケラ）エリアが見えるように設計。
	倉庫	28㎡		技術伝承活動のために、伝承室1と伝承室2を繋げて使用する際には、島展示什器や映像観賞用のツールなどを収納する。	奥行2000は最低限必要。
		95㎡			
エントランスホール	エントランスホール	80㎡	14.4%	蛇のレプリカ展示。 蛇体は竹、藁を使い、シダ（コケラ）などはレプリカを検討する。また、蛇はとぐろを巻くように設置する。	蛇は実寸大（15m）のレプリカを設置、床固定とする。 風除室からエントランスホールに入る際に、受付が目に見えることが必要であるため、蛇のレプリカは受付よりも右側に収まるように配置する。 グラフィックパネル設置。
	来館者用出入口 風除室	15㎡		来館者挨拶（グラフィックパネル）の機能も兼ねる。	
		88㎡			
共用	男子/女子トイレ	30㎡	13.3%	運営者・来館者利用可能	ひとにやさしいまちづくり条例に基づき設計する。
	だれでもトイレ	5㎡		運営者・来館者利用可能	ひとにやさしいまちづくり条例に基づき設計する。
	授乳室	5㎡		運営者・来館者利用可能	
	更衣室・休憩室	17㎡		基本は、体調のすぐれない運営団体の方の休憩スペースとして設置。 更衣室は男・女で分け、休憩室は一体で検討。休憩室を使用する際は、更衣室から入り、引き戸に鍵がかけられる。 休憩室が入りにくいという意見も一般的にあるため、更衣室を経由して入ることで、外の目を気せず休憩室を利用できる設計としたい。	更衣室、休憩室共に引き戸に鍵を付ける。
廊下	31㎡	伝承室2と共用のスペースを仕切る役割を持つ。 低い展示ケースによる仕切りのため、更衣室への廊下突き当りにシダ（コケラ）エリアをみることが出来る。	シダ（コケラ）エリアに面する部分にスリット窓を設置		
		129㎡			
管理	事務室	30㎡	19.5%	運営者の事務室	窓口、ショップのレジ管理
	ショップ	10㎡		じゃがまいたに関するグッズを販売する。 事務室とつなげることで、購入時は事務所窓口で行う。お金の品物の管理は事務室内で行う。	商品用ラック
	会議室	15㎡		小規模の会議を行うための会議室として設置。 小規模な講習会、開催当日の詰め所の役割としても使用可能。	10人用事務机・椅子
	収納・湯沸	10㎡		運営者用のロッカー、ミニキッチン、事務用品収納、在庫保管庫など機能を兼ねる。	ロッカー、ミニキッチン、ラック
	北側通用口 風除室	4㎡		スタッフ・運営者用の通用口	
	収納	3㎡		運営者用の備品収納庫	
	SLW収納	2㎡			
	機械室	55㎡		屋外から機械のメンテナンスや入替等の搬入ができる。 蛇作りの作業に使用する鎌など、刃物を運営者が管理する必要がある。壁掛け収納を基本とする。	鍵付きの収納エリアを設ける。
		660㎡		概算500㎡	
		100.0%			
外構	管理者用駐車場 3台				
	伝承館駐車場 7台				
	屋外広場			設計時にサイン計画も含める。	
	シダ(コケラ)・竹エリア			設計時に造園会社を含め検討を進める。	

5-3 平面図

① 基本平面図

平屋660m²



A4横 1/250
平面図
平屋 660m²



- ▼ 来館者動線
- ▼ スタッフ動線
- ▼ 搬入動線

間々田のじゃがまいた伝承館整備基本計画

令和5年3月 小山市・小山市教育委員会（事務局 小山市文化振興課）

住 所：〒323-8686 小山市中央町1丁目1番1号 本庁5階

T e l：0285-22-9659（歴史のまち推進係）

F a x：0285-22-9560